

イベント 8.1アートでつなぐみんなの実験場 [えのこじま仮設映画館]
「映画館」という存在のこれから

ーオープニング スペシャル上映会& トークイベントー

[トップ](#) >> [イベント](#) >> 「映画館」という存在のこれから

えのこじま仮設映画館*1のオープニングイベントとして、16ミリフィルム映画の上映会とスペシャルトークイベントを開催します。
参加無料ですのでお気軽にご参加ください。

*1 えのこじま仮設映画館の詳細は[こちら](#)

**第1部：16ミリフィルム映画「大人も子どもも楽しめる短編映画上映会」**

大人も子どもも楽しめる16ミリフィルムの短編映画を上映します。参加無料ですのでお気軽にご参加ください。

上映予定作品：ジョルジュ・メリエス《月世界旅行》（1902/モノクロ/20分）、岡本忠成《小さな五つのお話》（アニメーション作品/1974/カラー/18分）、ダイアン・ジャクソン《スノーマン》（アニメーション作品/1982/カラー/26分）、《映画の出来るまで》（1959年/モノクロ/19分）

日時：8月1日（土）14:30～16:00（受付開始：14:15）

定員：30名（当日先着順）

参加費：無料

協力：神戸映画資料館

■上映作品の紹介

「月世界旅行」ジョルジュ・メリエス（1902/モノクロ/20分）

天文学の教授が学者とともに月へ探検旅行する物語で、世界最初のSF映画と言われている。月にロケットが突き刺さる場面をはじめ、学者が月の人をこうもり傘で叩くとパッと消えてしまうなど様々な特殊撮影が見どころ。



「小さな五つのお話」岡本忠成（アニメ/1974/カラー/18分）

「おしいれ」「どろんこ」「もけいひこうき」「のらねこ」「かくれんぼ」の五つの話をそれぞれアニメーションのスタイルを変えて描くオムニバス映画。
1975年度教育映画祭優秀作品賞。第34回芸術祭大賞。

「スノーマン」ダイアン・ジャクソン（アニメ/1982/ カラー/26 分）

イギリスの絵本作家レイモンド・ブリッグスの原作をアニメーションで映画化したシネ・ポエジー。雪の降ったある日のこと。少年が1 日ばかりで作ったスノーマン（雪だるま）が真夜中に突然動きだし、少年と遊び始める。

「映画の出来るまで」（1959 年/ モノクロ/19 分/冒頭欠落）

映画全盛期の日本の撮影所でどのように映画が作られるのかを描く教育映画。

第2部：スペシャルトークイベント「映画館」という存在のこれから

地域の施設としての「映画館」。

人々が集まるお祭りとしての「映画祭」。

みんなにとって映画はいままでどんな役割を持っていたのか。そして今後、映画と映画館はどんな存在になっていくのか。

「えのこじま仮設映画館」の初日の夜は、関西の映画館や映画祭をよく知る人たちが集って語りあい、未来の映画館の姿をみんなと一緒に考えてみたいと思います。

ゲスト：中野聖子（NPO 法人なら国際映画祭実行委員会理事）、中本真生（映像芸術祭MOVING ディレクター）、山崎紀子（シネ・ヌーヴォ支配人）、森田和幸（関西映画情報サイト「キネブレ」立ち上げ人）

司会：岩淵拓郎（えのこじま仮設映画館プログラムコーディネーター）

日時：8月1日（土）17:00～19:00

定員：30 名（当日先着順）

参加費：無料

協力：キネブレ

<ゲストプロフィール>



中本真生（なかもと まさき） 映像芸術祭MOVINGディレクター

1983年生まれ。愛媛県新居浜市出身、京都在住。UNGLOBAL STUDIO KYOTO代表、&ART編集長、映像芸術祭MOVINGディレクター、南三陸ドキュメンタリープロジェクトプロデューサー。アーティストとして”なかもと真生”名義でも活動。

サイト：[映像芸術祭MOVING](#)



中野聖子（なかの さとこ） なら国際映画祭実行委員長

1968年、奈良市生まれ。生家は奈良市内で最初に映画をかけたと伝わる尾花座。株式会社ホテルサンルート奈良代表取締役社長のほか、なら国際映画祭実行委員長、なら燈花会の会会長を務める。この映画祭のおかげで、期せずして尾花座も復活させることになった。

サイト：[なら国際映画祭](#)



山崎紀子（やまさき のりこ） シネ・ヌーヴォ支配人
1977年、大阪生まれ。大阪美術専門学校にて3年間、油彩画を学ぶ。在学中に今はなき梅田花月の夜だけ映画館「シネマワイズ」にてアルバイト。2001年、シネ・ヌーヴォに入社。2008年、支配人に就任。以降、数々の特集上映企画に携わる。釜ヶ崎を舞台にした16mm劇映画『月夜釜合戦』（佐藤零郎監督）の宣伝担当。

サイト：[シネ・ヌーヴォ](#)



森田和幸（もりた かずゆき） 「キネブレ」立ち上げ人
1981年、奈良県生まれ。広告代理店・新聞社勤務を経て、フリーの編集・ライターとして5年間活動。2012年5月に関西の映画・映像情報を発信するウェブマガジン「キネブレ」を立ち上げ、映画館や映画祭、マサラ上映などのユニークな上映イベントを多数取材した。「映画館女子ガールズトーク」など映画イベントの企画も。

サイト：[キネブレ](#)



岩淵拓郎（いわぶち たくろう） 編集者・えのこじま仮設映画館「はなす・もちよる」プログラムコーディネーター
1973年、宝塚市生まれ／宝塚市在住。'02年から美術家として活動、'11年に廃業。現在は、文化・美術に関する書籍の編集をはじめ、アートプロジェクトやトークイベントなどの企画、伝産系企業のブランディングなど、広義の「編集者」として活動。2012年～2014年、宝塚映画祭のディレクターを務める。一般批評学会会員。

サイト：[メディアピクニック](#)

サイトポリシー・ プライバシーポリシー	> enocolについて	> お知らせ・プレスリリース	Like 223 ツイート ^
指定管理者	> 事業紹介	> メルマガ登録	
パナー広告募集	> フロアガイド	> ニュースレター	
	> レンタルスペース	> お問い合わせ	
		> アクセス	